

Identities and Rugby

I : attitude

大相撲の世界が大揺れに揺れました。問題が拡散し混乱した原因は大相撲の identity についての認識が浅く、力士自身が基本的に理解し意識して行動しないかったことによるものです。力士の野球賭博や八百長相撲が悪いことで社会的に認められないのは言うまでもなく議論の対象になることではありませんが、それと identity をごっちゃ混ぜにし大相撲がスポーツが否がということから財団法人としての存在是非にまで議論が拡がったことは残念なことでスポーツ界への警鐘としてとらえねばなりません。ラグビーは世界でも identity について考えるべきよい機会を得られたと言うべきでしょう。

多くのスポーツはそれぞれに永い歴史があり永い年月の間に育まれた identity (存立理念・思想) があります。そのスポーツ独特の活動やマナーを通じてそのスポーツを楽しむ「心」や目指すものを含めた「意思」を育んできました。そのスポーツを楽しむに当たって永い間に育まれた思想に学び活動やマナーに生かし自分自身が楽しむと共に、将来に継承していかなくては本当にスポーツを楽しんだということはできません。identity への認識はそのスポーツを始めるに当たって絶対的に必要というわけではありませんが長期にわたって親しんでいる過程でそれを認識しているかどうかによる楽しみ方の違いが生じ、その人のスポーツ人生の違いができます。その違いが小さい間は問題がありませんが、一人一人の違いが寄り集まり間違っただった思想を持った集団が横行したりしだすと本来の思想は影が薄くなり「悪貨が良貨を駆逐する」ごとく identity が忘れ去られるようになってしまいます。

identity=absolute sameness 同一、自体、本体という意味の言葉です。そのもの自体が持っている良いものを抽象的に指摘する場合にも使われます。identity card といえば身分証明書です。それは私たち個人の身分証明書と共に自覚を持ち自信を持って行動する元になる大切なものです。ラグビーの identity を知識として知っているだけではなく実行して初めて価値のあるものです。今日のルールブックには Playing Chart が掲示されています。それは永い歴史の産物である思想をわかりやすくまとめたものです。

この機会に改めてラグビーの identity について学び直し認識を高めることはラグビーを楽しむのに役立つことだと思います。そこで研究材料として西川ラグビーコラムに次の五つの領域に分けて提示し考察を深める一助としたいと思います。

2011.09.18

西川 義行